

五人の会

宝飾品史研究家 山口 遼は、2019年10月に日本のジュエラー五名を集め「五人の会」を発足することといたしました。

日本の宝石業界がバブル経済の破綻以降、数十年にわたり低迷を続ける中で、確固たる志を持って、ジュエリーの創造に取り組んでいる作家は、少数ですが存在します。こうした作家はあまり世に知られることなく、その作品は独自性に富む素晴らしいものばかりです。

この「五人の会」の取り組みにより、ジュエリーを愛好する顧客にさらにジュエリー

を楽しんでいただくことを願い、また低迷する宝飾の世界に新しい風を送ることが出来れば、と考え企画いたしました。この五名の作家は研究熱心であり、それぞれがユニークなアイデアと確固たる技術を持ち、精緻ながら面白さと大胆さを併せ持つという従来のジュエリーには見られない作品を生み出しています。しかし、こうした優れた作家たちは、大概つましく、謙虚であり、あまり知られようとは思っていません。また、彼等が制作できる数量は自ずと限界

があり、単独での催事には向いていません。

そこで、この五名の作品を百点以上集め、それを一堂に展示して多くの方にご覧いただき販売する機会を今後、全国の優れた小売店で設けてゆきたいと考えております。

この「五人の会」の活動が、日本が誇るジュエリー作家とその品格ある作品を世に知らしめる機会となり、また多くの方に楽しんでいただくことが出来ますようご協力をよろしくお願い申し上げます。

「五人の会」のメンバー紹介

秋場 けい子	Keiko Akiba
塩島 敏彦	Toshihiko Shiojima
首藤 治	Osamu Shudo
長井 豊	Yutaka Nagai
村松 司	Tsukasa Muramatsu

「五人の会」メンバーのプロフィールと作品の特徴

秋場けい子

ブローチ

〈プロフィール〉

ミキモト装身具入社、安藤薩雄氏に師事。その後退社して独立し菊池久美子氏、久保田耕一氏に師事。他の会社のワックス原型を制作すると共に atelier lala を設立して自身のジュエリーを作る。



〈作品の特徴〉

ソフトワックスを使用し、自然のモチーフを生かした柔らかみのある、女性らしい繊細な作品が特徴。大きなジュエリーは少なく、日本の女性に似合う小ぶりな作品が中心で多くの女性から高く評価されている。

塩島 敏彦

ブローチ

〈プロフィール〉

象嵌作家 塩島東峰に師事。渡英しピクウェの再現に挑戦し、1985年、100年ぶりにピクウェ技法を復活させ、世界で唯一のピクウェ作家として活動を始める。昔存在していて、今は無い技術を発見すると復元に意欲を燃やしピクウェ、パート・ド・ペールなど至難の技術を生かした作品で知られる。



〈作品の特徴〉

幻の技法の再現に成功したべっ甲素材のピクウェに加え、象牙、真珠母貝、真珠などを素材としたピクウェ作品やパート・ド・ペールなど、他の人の手掛けない独自の技術を高めたユニークな作品群が特徴。

首藤 治

ブローチ

〈プロフィール〉

故岡村光也氏に師事。国家検定一級技能士取得、有限会社ジュエリークラフトシュドウ設立。2005年サロンをオープン。早くから若手技術者の育成に努め、名古屋造形大学非常勤講師など歴任。一級技能士全国大会で金メダル及び労働大臣賞。厚生労働省主催「現代の名工」表彰など受賞歴多数。2015年天皇陛下より黄綬褒章を受けられる。



〈作品の特徴〉

ジュエリー制作技術全般に卓越した能力を生かし、エナメル技法なども加えて表現された繊細で優美な作りとデザインの作品が特徴。動植物など具象デザインの見事な表現が主で、日本人女性にこの上なく向いたデリケートな作品が多い。

長井 豊

ペンダント

〈プロフィール〉

日本で基礎技術を習得後イタリアに渡り、ローマ国立美術アカデミア修学と同時に各工房にて伝統技術の研修後、ワークショップをローマにてオープン。ヨーロッパ各地で個展及び展覧会に参加。ローマオラフー協会等で講師を務める。その後、ローマ金銀細工師協会より最優秀オラフーとしてルーカ賞を受賞し、日本に帰国。国内、海外での展示会に参加、卓越した技術で知られる。



〈作品の特徴〉

金工細工の本場イタリアで長年活躍したイタリア独特の金細工技術と日本の感性とをマッチさせた、他の作家には見られない独特の作りとデザインの作品が見事。大胆な発想と繊細な作りをマッチングさせた作品は他に類を見ない。

村松 司

ブローチ

〈プロフィール〉

山梨県立宝石美術専門学校で学んだ後、甲府近郊でアトリエを開く。日本ではまだ珍しかったエナメル細工を専門とし、エナメルの世界では第一人者となる。日本クラフト展新人賞受賞。イタリア・オロジエンマ展、スイス・時計博物館合同展などに出店。国家検定一級技能士取得。山梨県知事認定ジュエリーマスター、山梨県立宝石美術専門学校非常勤講師。



〈作品の特徴〉

主なデザインテーマである自然界の生命力を表した具象の作品を多彩なエナメルの技術で描いた作品は、国内では類を見ないもの。純粹なエナメルだけではなくブリカジュールやパート・ド・ペールなども駆使し、繊細で多彩に仕上げられた作品は見事である。

五人の会

宝飾品史研究家 山口 遼は、2019年10月に日本のジュエラー五名を集め「五人の会」を発足することといたしました。

日本の宝石業界がバブル経済の破綻以降、数十年にわたり低迷を続ける中で、確固たる志を持って、ジュエリーの創造に取り組んでいる作家は、少数ですが存在します。こうした作家はあまり世に知られることなく、その作品は独自性に富む素晴らしいものばかりです。

この「五人の会」の取り組みにより、ジュエリーを愛好する顧客にさらにジュエリー

を楽しんでいただくことを願い、また低迷する宝飾の世界に新しい風を送ることが出来れば、と考え企画いたしました。この五名の作家は研究熱心であり、それぞれがユニークなアイデアと確固たる技術を持ち、精緻ながら面白さと大胆さを併せ持つという従来のジュエリーには見られない作品を生み出しています。しかし、こうした優れた作家たちは、大概つましく、謙虚であり、あまり知られようとは思っていません。また、彼等が制作できる数量は自ずと限界

があり、単独での催事には向いていません。

そこで、この五名の作品を百点以上集め、それを一堂に展示して多くの方にご覧いただき販売する機会を今後、全国の優れた小売店で設けてゆきたいと考えております。

この「五人の会」の活動が、日本が誇るジュエリー作家とその品格ある作品を世に知らしめる機会となり、また多くの方に楽しんでいただくことが出来ますようご協力をよろしくお願い申し上げます。

「五人の会」のメンバー紹介

秋場 けい子	Keiko Akiba
塩島 敏彦	Toshihiko Shiojima
首藤 治	Osamu Shudo
長井 豊	Yutaka Nagai
村松 司	Tsukasa Muramatsu

「五人の会」メンバーのプロフィールと作品の特徴

秋場けい子

ブローチ

〈プロフィール〉

ミキモト装身具入社、安藤薩雄氏に師事。その後退社して独立し菊池久美子氏、久保田耕一氏に師事。他の会社のワックス原型を制作すると共に atelier lala を設立して自身のジュエリーを作る。



〈作品の特徴〉

ソフトワックスを使用し、自然のモチーフを生かした柔らかみのある、女性らしい繊細な作品が特徴。大きなジュエリーは少なく、日本の女性に似合う小ぶりな作品が中心で多くの女性から高く評価されている。

塩島 敏彦

ブローチ

〈プロフィール〉

象嵌作家 塩島東峰に師事。渡英しピクウェの再現に挑戦し、1985年、100年ぶりにピクウェ技法を復活させ、世界で唯一のピクウェ作家として活動を始める。昔存在していて、今は無い技術を発見すると復元に意欲を燃やしピクウェ、パート・ド・ペールなど至難の技術を生かした作品で知られる。



〈作品の特徴〉

幻の技法の再現に成功したべっ甲素材のピクウェに加え、象牙、真珠母貝、真珠などを素材としたピクウェ作品やパート・ド・ペールなど、他の人の手掛けない独自の技術を高めたユニークな作品群が特徴。

首藤 治

ブローチ

〈プロフィール〉

故岡村光也氏に師事。国家検定一級技能士取得、有限会社ジュエリークラフトシュドウ設立。2005年サロンをオープン。早くから若手技術者の育成に努め、名古屋造形大学非常勤講師など歴任。一級技能士全国大会で金メダル及び労働大臣賞。厚生労働省主催「現代の名工」表彰など受賞歴多数。2015年天皇陛下より黄綬褒章を受けられる。



〈作品の特徴〉

ジュエリー制作技術全般に卓越した能力を生かし、エナメル技法なども加えて表現された繊細で優美な作りとデザインの作品が特徴。動植物など具象デザインの見事な表現が主で、日本人女性にこの上なく向いたデリケートな作品が多い。

長井 豊

ペンダント

〈プロフィール〉

日本で基礎技術を習得後イタリアに渡り、ローマ国立美術アカデミア修学と同時に各工房にて伝統技術の研修後、ワークショップをローマにてオープン。ヨーロッパ各地で個展及び展覧会に参加。ローマオラフォー協会等で講師を務める。その後、ローマ金銀細工師協会より最優秀オラフォーとしてルーカ賞を受賞し、日本に帰国。国内、海外での展示会に参加、卓越した技術で知られる。



〈作品の特徴〉

金工細工の本場イタリアで長年活躍したイタリア独特の金細工技術と日本の感性とをマッチさせた、他の作家には見られない独特の作りとデザインの作品が見事。大胆な発想と繊細な作りをマッチングさせた作品は他に類を見ない。

村松 司

ブローチ

〈プロフィール〉

山梨県立宝石美術専門学校で学んだ後、甲府近郊でアトリエを開く。日本ではまだ珍しかったエナメル細工を専門とし、エナメルの世界では第一人者となる。日本クラフト展新人賞受賞。イタリア・オロジエンマ展、スイス・時計博物館合同展などに出店。国家検定一級技能士取得。山梨県知事認定ジュエリーマスター、山梨県立宝石美術専門学校非常勤講師。



〈作品の特徴〉

主なデザインテーマである自然界の生命力を表した具象の作品を多彩なエナメルの技術で描いた作品は、国内では類を見ないもの。純粹なエナメルだけではなくブリカジュールやパート・ド・ペールなども駆使し、繊細で多彩に仕上げられた作品は見事である。